# ほかにわ

発　行　所：ほかにわ共和国
発行責任者：志　賀　俊　紀
編集責任者：ほかにわ広報部

## 謹賀新年

理事長　志賀俊紀

１月５日ほかにわ神社前にて　感染対策のため幹部職員のみで撮影

令和三年の元旦を寿ぎ、未来に乾杯をしたいが、昨年は新型コロナウイルスで日本はおろか世界中に「禍」が吹き荒れている。終息の特効薬もいまだ明確ではない。一方、未来志向の「わざわいあって福となす」という戒めもあるが、「健康なくしては事業を成功に導けない」との格言もある。しかも、この禍は、高齢者にとっては危険で厄介なウイルスである。ウイルスと言えば、一九八三年のエイズウイルスを想起させる。あの頃は、忌み嫌われ呪われたエイズであった。さらに人道上の問題も提起された。それは、お互いのコミュニケーションができなくなり、人間関係がおかしくなっていた。今がそうである。しかしながら、新薬の開発で全面的に改善されるであろう。今年の予防接種に期待したいが、コロナによる世界戦争と表現した方がよい。

ウイルスが植物の育種学の領域で問題視され始めたのは私が学生時代の六十年前のことである。遥か昔の高度成長期のその前の出来事である。海外旅行が流行になり、外国から輸入された、と言っても過言ではない。現在の実相と似ている。つまり、過去に学び未来を見通すという極めて当たり前のことであるが、施設の中に持ち込まないように細心の注意を促したい。

### ほかにわ共和国奥津城（おくつき）竣工

権田ほかにわ神社下にメモリアルホール・奥津城が完成した。

**丸太造りの古風な佇まいで、神木をとり囲んでいる。**

**以前本誌でも取り上げた「九年母」について口之津歴史民俗資料館・元館長の原田氏より紹介記事をいただきました。**

３８０年前、島原・天草一揆が起きた時、天草四郎が食料の一つとして持っていたミカンが九年母でした。この九年母には何か薬効がないか、東京大学の農産物の成分分析で知られる永田教授に解析してもらったところ、果皮の部分は長寿遺伝子の活性化が高いことが分かりました。平たく言えば、九年母の皮には人々が長生きできる成分があるということです。この結果はまもなく学会で発表し世界に発信されます。また九年母には「じゃばら」と同様の成分が含まれていて、花粉症抑制効果が期待されます。

九年母の苗はほかにわ共和国をはじめ、２０軒に植えてもらっています。四、五年先が大変楽しみになります。口之津町内に植えられた九年母の木に三十個ほど実がつきました。

九年母を継承する会　原田建夫

## 安心・安全な支援のために

令和二年の新年職員研修会において、事業所毎に向こう三ヶ年の中期経営方針を話し合った。デイ雲は、「安心・安全な支援を提供する」という重点目標を設定し、この目標達成のための①事業展開、②地域展開、③人的展開とそれぞれの具体的行動内容を次のように決定した。

①は、現状を維持しながら新規利用者の受入、そして行動内容は放課後等デイサービスの活動の充実と営業時間の見直、としたが、新型コロナウイルスの感染防止のために様々な活動の中止・変更が相次いだ。しかしながら、放課後等デイサービスでは臨時休校期間中も受け入れを行い保護者の方々のニーズに合わせて柔軟な対応ができたと考えている。

次に②は地域活動への積極的な参加、そして行動内容は行事に組み込んで地域のイベントに参加する、としたがコロナ禍の影響で地域の行事が中止となり、ヘルマンハープの老人施設等への慰問演奏など地域での文化活動も行えなかった。暫くは事業所内での活動を充実させることで今後の外部での活動に備えたい。

最後に③は人材の確保、そして行動内容としてハローワークへの求人を継続する、労働時間の選択に対応する、としたが、人材面については、人材の確保と合わせて、定着のための仕組み作りの必要性を感じており、今後の課題としたい。

三か年のうちの最初の一年を振り返ってみると、今年度は新型コロナウイルスの流行という想定外の展開があり、事業所運営も計画通りに進めることが困難で決して思い通りではなかった。しかしながら、試行錯誤をしながら新しい考えを取り入れてサービス提供を行ってきた。

まだ暫くはコロナ禍が継続すると思われる。今後も安心・安全な支援の提供を心がけ、職員一同協力しサービス提供をしていきたい。

デイ雲　福田　亮

# 特集

**ほかにわ共和国には四つの専門部（研修部・ＱＣ推進部・地域活性部・広報部）である。専門部活動について、各部長に過去・現在の活動実績を聞いてきた。今回は四回目となり地域活性部部長に活動について語ってもらった。**

今年度はコロナ禍の影響で地域活性部の活動は、地域のイベント活動の中止が相次ぎ、思うような活動が出来なかったが、八月には、これまで開催していた「高校生福祉講座」を、感染予防に配慮し、十人の参加を得て開催できた。そして、利用者の生活状況や働く様子を見学し、触れ合うことによって、障害に対する理解を深めることができた。

十一月二十八日には「島原半島うみやま街道」清掃活動に参加した。「うみやま街道」は島原半島を海岸線百九十四キロの自然の景観を守る活動である。因みに、利用者と職員九十名が参加できた。

昨年の秋は、コロナ第二波、現在は。非常事態宣言第二弾である。今後の活動についても計画を見直し、再開の目途も立っていない状況下であるが、すべてのことをコロナの理由にして、動こうとしない自分達がいるのも事実である。

すなわち、新しい生活様式の中で何ができるのか、どうすれば活動できるかを考え、新たに地域との取り組みを模索し、今しかできない事を地域活性部で企画提案し行動に移す必要がある。と考える。

コロナ禍は、地域の活動が再開した際に直ぐに活動が出来るための準備期間とし活動内容を見直す良い機会ではないだろうか、とも考える。

部長　中村　久人

うみやま街道一斉清掃での集合写真

## 第44回 ほかにわ共和国 新年職員研修会

### テーマ「Only oneのほかにわックス ファースト」

題字 森愛可（デイ雲）

毎年１月５日は恒例になった新年職員研修会であるが、今年は、新型コロナウイルス感染対策のため、インターネットを活用したリモート形式の研修会となった。キー局をデイ雲におき、各事業所に分散して実施した。

昨年、事業所毎に３か年計画を立て初年度の見直しとなった。コロナの影響もあり再度計画を見直し、振り返り、コロナ禍の状況を踏まえた上で、今後の課題と展開を話し合い、目指す方向性を共有できたと思う。

次に悠炉里・大場主事の虐待防止研修が行われた。虐待を起こさないために支援者として欠けている側面・不可欠な側面を改めて学ぶ事ができた。

この他に「こころの健康づくり」と題してメンタルヘルスに関する研修を行った。研修の講師の、勝又友子氏は、南島原市福祉課に28年の勤務歴があるベテランで、児童・高齢者・障害分野に従事されている。

昨今、支援者の精神面の問題が取りざたされているので、講師から配布された資料を基に共に考える時間が共有できた。

松尾浩道

## 売いたか。なっ@

レインボー班みんなの気持ちをこめて完成できました。

売れています！オンリーワンなコート！です。

お買い上げの皆さまには、本当に感謝しております。

色々な洋服に合わせやすく、ワンポイントの織布もとてもキュート&クールです。

「はぁとふる」及び「デイ雲柿の木」にて販売しております。

ぜひ、手に取って見てください。

（デイ雲柿の木）

## myブーム myコレクション

### 私の話聞いて・・・

私は、昔から料理が好きで、その経験を活かして調理員となり、もう二十年が経ちました。

グループホームを出て、一人暮らしをしています。一人の生活は、楽ではありますが生活が雑にならないように地域の人から頂いた野菜を使いながら、ほとんど自炊をしています。

たくさんできた時は、頂いたお礼に、おすそわけしています。食べてもらった料理が「おいしかった」「また作って」と言われた時には、嬉しくなります。ワークネットやはたでも、調理員の皆と美味しい料理を作っていきたいと思います。グループホームを卒業した一人として、皆の手本になるように一生懸命頑張ります。

ワークネットやはた
調理員　宮崎鉄男

### ほかにわ共和国の動き

1月　メモリアルホール完成
　　鳥居竣工（権田ほかにわ神社・デイ雲柿の木）
2月　年祝い（各事業所）
3月中旬　理事会
4月1日　辞令交付式

# 大空

障碍者支援施設
八雲寮広報部

## ひと捻りの忘年会

自粛ムードの年の瀬、恒例の忘年会は原城跡にある「真砂」にて開催されましたが、趣を変えて、会食の盛り上がりを縮少して、余興が用意され、いつもとは違う「ひと捻り」の演出があり、盛り上がりました。

そのメインが、「仮装大賞」でした。テーマは自由でA～Dの四チームに分けられ、最もインパクトのあるチームに賞品が贈られました。

審査委員は瀬尾事務長で、第一位に選ばれたのは、Bチームの名探偵コナンに扮した林田武彦さんでした。本人もコナンになりきって「真実はいつもひとつ！」そう声を出していました。林田さんは、入所間もない人で、寮生忘年会は初めての経験でした。そして、他のチームの皆さんもそれぞれご満悦でした。例えば、ゲームのキャラターで有名なあの人・・・、それから派手なママと中学生の兄弟、煌めく女性など様々なテーマ参戦され、大いに盛り上がりました。

「ひと捻り」すると、いつもと違う新しいことを生み出すことができたことは、次に繋がる良い機会になったか、と感じました。

まだまだ大変な世の中が続くことでしょうが、大変な中にも小さな幸せ・楽しみを生み出し、大きな思い出にしていきたいものです。

生活支援員　加来

優勝したのはコナン君に扮した林田武彦さん

他の皆さんも大いに盛り上げてくれました

「一捻り」とは個性を引き出す演出、音楽で言えば、お洒落なアレンジの意である。

誰だかわかるかな？

**２月行事**
○節分
○年祝い

## ジングルベル♪ジングルベル♪

世界中がイルミネーションで光輝く十二月二五日、クリスマス会が行われました。利用者の皆さんが「プレゼントは何かな？」と浮足立っていると、クリスマスソングに合わせてサンタさんが登場！ひとりひとりに豪華なケーキをプレゼントしてくれました。

ケーキを目の前にした途端、目を輝かせ興奮するみなさん。「美味しいね」と満足そうな表情であっという間に完食し、早くも来年のクリスマスを楽しみにしている様子でした。

（宮原）

## Happy New Year

今年度は冬の帰省もなく新年を八雲寮全員で迎えたお正月。あけましておめでとう！！と皆であいさつを交わし、まずはお屠蘇やビールでかんぱ～い♪新しい一年が始まったことをお祝いし、調理員さん手作りのおせちも全員揃っていただきます。刺身に赤飯お雑煮と、一般家庭のお正月と同じように振る舞い、目の前にあるご馳走を口いっぱいに頬張りながら食べてくれている姿を見ると、作っている側の私たちもうれしく思います。

（安藤）

## じゃがいも雑感！

令和二年は年の始まりから感染症に脅かされ、夏には豪雨災害、しかもコロナの感染拡大は未だ収まることを知らず、誰しもが警戒を解けないでいる。しかし、私たちは、環境と習慣の変化に即した新たな考え方を持つようになれた。これは、プラスと捉える機会であると思える。

ただ、新たな社会情勢の変化があったとしても、これまで培われた伝統と風習は、継承する意義が多くある。つまり、失ってはならない「まつりごと」は、今一度歴史を振り返り、懐かしむときも必要ではないかと強く感じる。

今年も厳しい環境になる事が予測され、世の中(福祉施設)が変わっていく上にあっても、これまでの施設実践を振り返り、今に順応し、志向をもって「こと」に当たっていきたい。

八雲寮総務主事　白倉和裕

## がんばらんば宣言

**溝江 豊さん**

溝江豊さんは 1970 年八雲寮開設の 30 名の一人である。彼は、「ゆ～たかちゃん」の愛称で「静かなドン」のイメージがある。お父さんの農(故人)さんは県立施設の父兄会長の経験があり、八雲寮育成会の結成に尽力された人であった。私とは、親子ほどの年齢の差があったが、目的は同じであった。

八雲寮（障害者支援施設　相談支援　短期入所　日中一時）〒859-2606　長崎県南島原市加津佐町甲5718番地
TEL0957(87)2347　FAX0957(87)2197

# こゅうどうら

1月号 No.200

## 新しい様式で過ごす年末・年始

**令和三年を迎え新しい年が始まった。昨年末からの新型コロナウイルス感染拡大のため、年末・年始の季節的な行事も内容を工夫した上で実施することが求められている。**

## 2020クリスマス会 ～活動発表会に向けて～

十二月二十五日に一年の締めくくりの行事でクリスマス会を開催しました。現在の新型コロナの感染を心配する状況の中で、職員は利用者の皆さんがいかに楽しく過ごせるかを模索しながらの行事です。クリスマスは成人も児童もウキウキしながら楽しみにされている事もあり、会の内容も工夫が必要でした。

今回は二月に開催予定のデイ雲活動発表会に向けて練習を行っている文化活動（ヘルマンハープ・トーンチャイム・フラダンス）の出来栄えを披露しようと、発表会を取り入れました。利用者さんの練習にも熱が入り、当日も盛り上がりました。その後は恒例のプレゼント交換で皆さんわくわくされている様子でした。最後にケーキとコーヒー・お菓子をいただき笑顔で過ごせた一日となりました。二月の発表会本番もこの笑顔を皆さんに届けたいと願っています。（山本）

ヘルマンハープの音色に皆聴き入っていた

## 令和2年の利用者忘年会

12月11日、加津佐町の「魚勝」さんにて利用者忘年会を行いました。今回は参加希望の利用者と職員のみで、例年のように余興も行わず、食事も一人ずつのお弁当方式でした。乾杯の後は、昨年度の活動発表会の動画を上映しました。２月の活動発表会も今から精一杯頑張って練習しようと利用者の皆さんが思われた事でしょう。

時間も短縮しての忘年会でしたが、少しでも利用者さんの笑顔を見ることができてよかったです。（光長）

## 今年一年健康で安全に過ごせますように・・・

新年最初の行事は初詣です。今年は希望者のみで場所も近い諏訪の池の神社に出かけることにしました。賽銭を投じ神前で一人ひとり願い事をしました。

コロナ禍が早く収束し、今年一年が利用者・職員ともに健康で安全に過ごせますように。（小山）

## 体験！　さつまいも掘り

デイ雲前の畑ではさつまいもを栽培しています。秋に放課後等デイの子どもたちと一緒に収穫をしました。普段畑に入る機会が少ない子どもたちには貴重な体験になったようです。

収穫したさつまいもは、給食の食材や、ふかし芋のおやつにして美味しくいただきました。

（小山）

## お立ち台

**今回紹介するのは、口之津町から通われている竹原一郎さんです。**

＊＊＊

十一月に五十五歳の誕生日を迎えました。これからも頑張ります。

## 歯ブラシもキレイにしよう！！

コロナ禍の影響もあり衛生意識が以前より高くなってきていますが、デイ雲では「歯ブラシ」を清潔な状態に保てるよう利用者さん向けに研修会を行いました。

今年度のＱＣ活動のテーマでもあり、今後も支援を継続していきます。

（福田）

## 雲と虹

新型コロナウイルスが世界中に広がり早一年が経とうとしている今、日本では感染拡大の第三波が押し寄せています。

デイ雲のある加津佐町の隣町まで来ており、日々危機感を持って支援についています。昨年は感染対策で外出行事や招待客を招いての行事はすべて中止や縮小しての活動になりました。特に外出行事は利用者の方がとても楽しみにしており開催する事ができず残念でした。代替行事を職員が知恵を出し合い工夫を凝らして実施し、利用者様に楽しんで頂きました。

未だ終息の見えないコロナ禍ですが今年も職員全員力を合わせ、利用者全員楽しく活動できるように頑張ります。（生川）

## 行事予定 2・3月

- 節分
- 年祝い
- 活動発表会

※状況により延期・中止になる場合があります。

生活介護　放課後等デイサービス　デイ雲　〒859-2606 長崎県南島原市加津佐町甲5718番地 TEL0957(87)2284 FAX0957(87)5277
お気軽にご相談下さい。

# 悠炉里

共同生活援助事業所
（介護サービス包括型）
悠炉里広報誌

1月号

## 新年あけまして　おめでとうございます

### 安全で安心して暮らせる施設づくり

施設長　志賀常盤

新年を迎えるにあたり、昨年の出来事を振り返りたいと思いますが、まずはアパートへ地域移行した方が一名、介護保険施設へ移行した方が一名、病気で亡くなられた方が二名という状況でした。中でも、亡くなられた二名は幼少期から施設を利用している方で、約五〇年を施設で過ごす方でした。ご家族の言葉として、施設がなければ到底面倒をみることは難しく、施設には感謝しかないと話されていました。私たちは当たり前のように福祉事業に従事していますが、利用される側からの思いを聞くことで、報われるというか心が温かくなる言葉だと思います。

地域移行された方や、介護保険施設へ移行された方に関しても、契約が終了しても関わりを持ちながら、出来ることはサポートしていきたいと考えていますし、困りごとには相談や対応をしたいと思います。

新年を迎え新たな気持ちで、利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら、安全で安心できる生活のサポートに尽力して行きます。

また、地域の皆様にはご理解ご協力賜りたいと存じます。

十五年前いろり庵での忘年会にて
家族のように過ごしているみんなで

## スポットライト

溝上幸さん

佐賀県出身の溝上さんは、子供とミッキーマウスが大好き！手先も器用で、毎日手作り弁当を就労先へ持って行かれています。仕事も、器用さを活かしたアイロンがけの仕事を頑張っています。

目標は「一人暮らしをすること」。聴覚障害を持つ彼女には困難も多々あるでしょうが、職員が全力でサポートします。一緒にがんばりましょう！　（井上）

## 自己研鑽を怠らない

湧雲荘には、聴覚障害を持ち、手話で会話されている利用者がいます。手話を言語としている方たちには、日本語の会話（筆談）は理解が難しく、真剣な話を理解してもらうにはやはり手話が適切な手段になります。

今は手話通訳者を依頼し、通訳をお願いしている状態ですが、やはり自分たちで伝えたい！と昨年、担当職員など、市で開催している手話教室に通い始めました。

職員の気持ちを直接届けることができるようになれば、支援の向上にも繋がると考えます。まだまだ「手話できます」とまでは言えませんが、今年度中には気持ちが伝わり、会話できるようになれば…と、週一で頑張っています。　（竹市）

## 嫌な出来事も中華を食べて忘れよう（笑）

12月吉日、1年間の疲れを、おいしいものを食べて吹き飛ばそう！と、悠炉里自治会による忘年会が加津佐町「中華料理　華豊」で開催されました。

小笹友幸自治会長、理事長・所長の言葉をいただき、岩本二男さんの乾杯で始まります。本格中華を味わい、ゆっくりと会話を楽しみ、1年間の嫌なことは忘れることが出来ました！

締めの万歳三唱をしてくれたのは、田中信之さん。「さぁ、皆さん、万歳！」令和3年はきっと楽しくていい年になりますね！

（吉田）

スカイハイツの玄関スペースに、利用者49名の誕生日を月ごとに貼り出しお祝いしています。

「今日は〇〇さんの誕生日ね！」「何歳にならすとかな？」など、皆さんの会話の話題として、そして「〇〇さん、誕生日おめでとう！」と、あったかい言葉がいつもより増えますように…今月生まれの方々、お誕生日おめでとうございます！（大平）

## 悠炉里恒例イルミネーション

近所の団地のちびっこも楽しみにしてくれているイルミネーション♪

寒さで凍えそうなとき、キラキラ鮮やかな光で気持ちが明るくなり、寒さを忘れてもらえますように。

（松本）

## こゆるりと

新たな年を迎え、今年は丑年という事で、先日新聞を読んでいると「丑年の特徴」という記事あり、興味深かったので、皆さんにも少しではありますが紹介したいと思います。そして、自分自身の今年一年の仕事に対する気持ちを書きたいと思います。

まずは、丑年の特徴として、もともと十二支は植物が循環する様子を表していると言われているそうです。丑は十二支の二番目で、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされています。丑年には、先は急がず目前の事を着実に進めることが将来の成功に繋がっていくと言われています。

この記事を読み、自分自身の仕事に置き換え、今年一年、目前の事から逃げたり、後回しにする事無く、一つひとつ目の前で起こる出来事に対して精一杯取り組みたいと思います。そして皆さんが今年一年幸せな年を送れるように願っています。

（大場）

## 今後の行事予定

- 自治会活動（年祝い）
- ホーム活動

悠炉里（共同生活援助（介護サービス包括型））　〒859-2601　長崎県南島原市加津佐町己277番地1　TEL0957(87)5086　FAX0957(87)5102

# 我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌　１月号

## 謹んで年頭の挨拶申し上げます

施設長　原田秀範

昨年は、年初めより新型コロナウイルスの恐怖に始まり、ここにきてウイルスの正体が徐々に明らかになりつつあります。年末から再度、爆発的感染へ向かう今、政府は、経済・医療など様々な分野を含め、国を守るために重要な舵取りを迫られているようです。

我々、福祉現場でも行政の通知などは殆どがコロナ関連の内容でありました。利用者の活動行事にしても寂しい思いをさせてしまっているようで心苦しくてなりません。就労活動から繋げる生きがいへの大事な一コマが、欠落した一年であったとも感じております。

そんな年を振り返り、今年は…と心膨らませても人の命を預かる事業です。成し遂げるには何事も慎重になる必要があり、その為には、厳しい決断も余儀なくされます。地域共生社会の実現もコロナ禍において足止めを食う形にならないか、Ｗｉｔｈコロナ・新しい生活様式とはいえ、先の見えない世の中になりました。それでも、明るい未来を見据え、安心安全な事業運営に徹し就労系事業に与えられた責務を職員共に達せられるよう頑張っていく所存です。

気合入れて餅つきするぞー！

## 楽しみを励みにして！

例年楽しみにされている旅行も今回は日帰り旅行という形にし、利用者の方へアンケートを取り内容を決めました。

昼食はザ・マーキーズにて、なかなか味わう機会のない懐石料理を少し緊張した雰囲気のなか、食事マナーなどを学びながら楽しまれていました。

昼食会場を後にし、島原・雲仙方面へ希望されたコースに分かれて、温泉やボウリングなど活動のなかで、仕事の時には見られない表情を見ることができました。

マーキーズで記念撮影♪

今年は、利用者・職員のみでの旅行であり「来年は家族と泊まりたかね」という声も旅行の合間に聞かれました。また、家族揃って旅行ができることを願いながら、これからの仕事も頑張っていければと思います。（山田）

## やはた共育大学通信

やはた共育大学４年生３名も、これからの進路を考える時期を迎えました。

ワークでは、働くために必要な知識や技術、忍耐力を身に付けることだけでなく、社会生活において大切な「人づきあい」についても支援しています。

コミュニケーションが上手くいかないと仕事や日常生活にまで影響してきます。利用を通して、コミュニケーションを取りながら「人づきあい」について学んでもらえるよう関わっていきたいです。　（松尾）

## 変化から見えた新たな発見

令和二年は感染症の影響を受けて、作業の受注が減少しました。

今まで、菓子箱などの箱折り作業を主にしてきた紙加工班には大きく影響してきました。そんな中、被服班に医療用防護服の受注があり、紙加工班でも取り組むことになりました。一緒に防護服のタタミや袋入れ作業をしながら、今まで関わることが少なかった作業に携われたことで、その人が持っている能力が見えてきました。

作業をする中で見えてきた、その人が持っている器用さなど新たな発見を今後の作業に活かし、仕事がある喜びを感じながら取り組んでいきたいです。（草村）

## 散歩道

ワークに異動となり、早いもので十か月が過ぎようとしています。異動当初は初めての事ばかりで利用者や職員の方に教えてもらう事・気付かせてもらう事が多々ありました。思い返せば、最初の所属先であった八雲寮農芸班でも同じようなことがありました。

配属先が変わると、知らない事がたくさんあり、知らない事を覚える楽しさを日々噛み締めながら過ごしています。今の気持ちを忘れずに支援に携わっていきたいです。（中村）

## ワークネットやはた　この人

名前：宮川　あゆみさん

Q）趣味はなんですか？

漫画を読む事です

Q）休日はどのように過ごしていますか？

漫画を読んだりTVを見たりしています

Q）これからの目標を教えてください。

被服のお仕事を頑張ります

●いつも笑顔で作業に取り組まれている宮川さん。作業では、厳しい目線で検品作業などを行われています。しかし、休憩中にはそんな宮川さんの笑顔に皆が癒されています。

ワークネットやはた（就労移行支援　就労継続支援Ｂ型　生活訓練）〒859-2606　長崎県南島原市加津佐町甲5527番地2
TEL0957(87)5055　FAX0957(87)2200

# これはこれか

## 新春万福

新年のお喜びを申し上げます。

デイ雲柿の木では、昨年新築いたしました飛雲荘が、本年一月一日より、新居でのグループホーム事業を開始しました。慌ただしい年末の移転引越しは、様々な工夫と対策で苦心の連続でしたが、真新しい我が家の住み心地に入居者が喜ぶ顔をみて安堵しております。

さて、年が明け、これからの三ヶ月間私達は、次年度の準備と本年度の仕上げに追われ、目の回る忙しさとなりますが、利用児・者様が安心して通所していただけるように、しっかりと安全対策を講じてまいりたいと存じます。

普通の暮らしが愛おしいと思える日々は、私達があまりにも傲慢に生活を送っていたと気づかせてくれたと思う事があります。

百年ほど前に世界で大流行したスペイン風邪H１N１型のA型インフルエンザウイルスにより日本国内では四十五万人の死者が出たと言われています。

繰り返される歴史に学び、未曾有の危機を乗り越えたいと願うばかりです。

新年に幸せが沢山ありますように、合掌。（由）

鬼火の煙を浴び無病息災を祈りました

絵：石川智広さん作

## 今年もできたよ！手作り黒糖

北有馬町へ、男性職員三名で黒糖作りに行って来ました。開始は午前七時と聞いていましたが、到着すると既に絞りの真っ最中。すぐ作業に参加しました。

絞り汁を釜へ移し、常にかき混ぜておらねばならず、初参加で慣れない自分は、釜の前で煙たさに涙しながら悪銭苦闘でした。今年の出来は、雑味が少なくあっさり、という意見が多数でした。絞りたての汁をゴクリと飲んでみたかった私は、希望が叶わずちょっと残念でした。（松永）

## We play "Wii"

毎年楽しみにしているクリスマス。今年は大人も子どもも一緒にWiiスポーツ大会を行いました。放デイのみんなは、度々遊んでいますが、大人の方たちは、ほとんど初めての人ばかり。その為少し緊張気味に始まった会では、身体を動かすとすぐに緊張がほぐれ、真剣な表情での勝負になりました。

皆さんが楽しんだのは、「ちゃんばら」。一生懸命リモコンを上下に振り、勝敗に一喜一憂していました。

大人の部優勝は《酒井俊治さん》、子どもの部の優勝は《松島昌汰くん》でした。

少し冷え込んだクリスマスが一気に温まりました。（恵理）

## まんまるなおもち

つきたてのお餅は格別です。特に臼でぺったんぺったん、つきあげたお餅は、粘りがよく味も上々です。一回目についたお餅は、思い思いに自分で丸めたら、砂糖醤油や黒砂糖をまぶして、まずは食べる。だって本当に美味しそうなのです。「たべた～い」の声が自然に漏れて、つきたてお餅の周りは人だかり。全部で四回も餅をついたのに臼の周りに殆ど人は集まりませんでした。

頑張ってついてくれたのにすいません。（加藤）

## 白熱！卓球大会

二ケ月に一度の施設内研修の今回ちょっと趣向を変え、卓球大会を開催しました。

元々卓球台はあったのですが、活躍する機会がご無沙汰になっていました。冬になって体を動かすことが更に減っている現状を払拭する良い大会でした。

優勝して喜ぶ者もいれば、回転がかかったサーブを取れず悔しさを滲ませる者も・・・。

卓球経験者も未経験者も、心も体も熱くなり、白熱したゲーム展開となりました。

次回も乞うご期待？（恵理）

## 言の葉

令和２年度前期、当事業所ではカラオケが大ブームとなった。きっかけは一昨年のカラオケ大会。

そして、後期は、任天堂のゲーム機wiiの様々なソフトに合ったリモコン等を使用してゲームを楽しむ遊びに夢中だ。外出ができない状況に少なからずストレスを感じている生活の中で少しでも軽減できれば良いと、職員が色々な知恵を出して工夫している。レクだけでなく、食事においても月に一度のバイキング誕生食は、密にならないような配置とグループ分けで、今まで通り実施している。

いつ誰が罹患してもおかしくない状況の中で、マスクの着用も手指の消毒も、丁寧な手洗いも充分にする事が難しい方々に対応する障害児・者の支援は、職員の日常を抑制する自覚と、責任に頼っていると思う。「これくらい、いいだろう」で感染源になってはならないと思い行動すると、連休をとりgotoはちょっとムリだ。（由）

## ２月の行事

８日　作業班別一日活動※
１６日　誕生会
１７日　弁当の日

## 1959 年ダウン症染色体発見の熱き確執

ダウン症が発見されたのは 1866 年 L.H.ダウンであるが、原因がわからないまま 1960 年を迎えようとした 1959 年、フランスの研究チーム(R.ターピン教授。M.ゴーティエ女史、J. ルジューヌ)は、その原因が染色体 21 のトリソミーであることを究明した。一般的に染色体は 2 本であるべきところが、21 番が 3 本でありそれがダウン症の発症の原因であるというb第発見である。当時は、ヒトの遺伝子が 46,48 であるという認識が世界の4－5か国で議論されていた。

わが国では北海道大学が先進校で国立遺伝研究所と連携して、世界のトップクラスの研究実績を上げていた、というのは、筆者の大学での研究は、育種学で突然変異の研究であったので、人間の遺伝学の基礎を学んでいたからこのニュースは、ダウン症の 5 名の入所者と邂逅す時に DNA の認識が閃いた。1968 年、施設におけるダウン症児の実践研究を開始、1982 年に論文が完成し発表した。

さて、染色体(トリソミー21)の発見は、研究者の間では世界的な研究の成果であった。当然、R.レジューヌはヒローになったが、その陰の逸話は幻に終わっていた。ところが、第二署名者の M.ゴーティエ女史は、50 年経過した 2009.03.25 に、「その真実はこうです。」という論文を発表した。しかも、6 月の論文では、染色体研究者と共同で「Fiftieth anniversary of trisomy21: returning to a discovery」(トリソミ 21 の発見、50 周年に戻る)は、フランスの科学アカデミーも女史の主張を認め、2014 年 1 月 31 日にボルドーで第 7 回の遺伝学の総会で表彰式と記念講演が計画されていた。しかしながら、J.レジューヌ財団は、「その儀、異議あり」と訴訟を起こした。そのため、その日の朝、土壇場で中止になった。フランスのメディアは、「これは何ぞや」と大きな事件に発展した。

女史は、世界の多くのダウン症研究者が、レジューヌの功績を認めている事実を、否定をしている科学者ではない。しかしながら、レジューヌの死後発足した財団の方向性に問題があると指摘しているのである。しかも、女史は、2009 年 6 月 30 日の論文冒頭で「"In reality, discoveries are due to people at the edge of the formalised groups of researchers"<Pierre Laszlo>」＝「実際には、発見は正式な研究者グループの端にいる人々によるものです〈ピエール・ラズロ〉。」と尊敬する科学者の座右の名を示している。この言葉には深い意味があり、20 世紀末に問題化したジェンダーに遭遇している女性科学者へのメッセージであると考えられる。大凡、科学の分野においては、男性優位という認識があり、女史の側面からは、染色体培養の技術的優位性を評価しなければならない事例であった。

ゴーティエ女史は、ノーベル賞受賞に絡む女性科学者の性差の問題事例を身をもって指摘している。因みに、ゴ女史の実績は、署名筆頭のレジューヌの輝きに比べると、「月とスッポン」の落差がある、と言える。

下の書簡は染色体の歴史研究で貴重な証拠

Pasadena
ce 5 Nov 58

Ma chère amie,

Grand merci de votre lettre du 20, à laquelle je réponds avec un inexcusable retard - mais, mai !, je n'arrête pas ici - Dans une université loin de tout, dans une ville où il n'y a rien à voir le travail devient un vice, faute d'alcool!

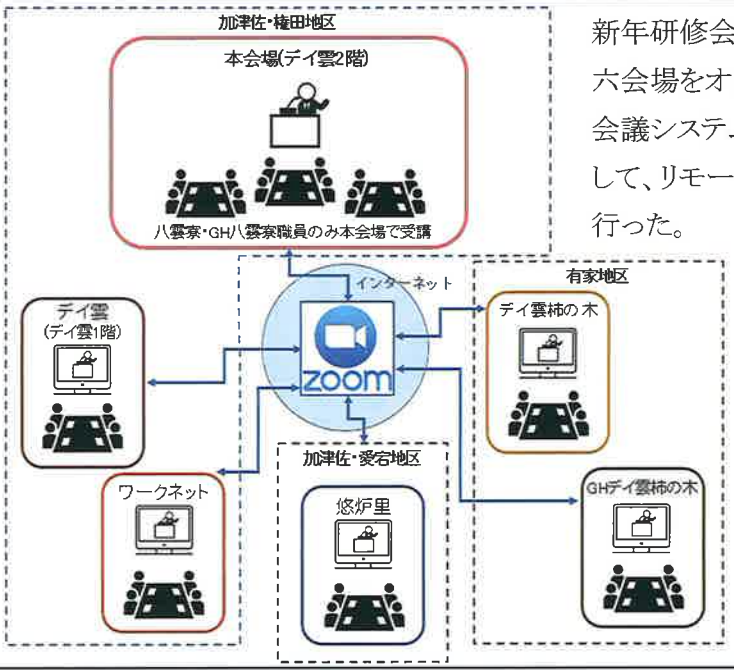
Un récent mot du patron m'a signalé que vos dernières préparations ont fait l'admiration de Moh, le généticien norvégien - cela prouve que ce brave sait apprécier la qualité -

航海中のレジューヌがゴーティエにあてた書簡

## フラットとしき

令和の三年の国家的大問題は、非常事態におけるコミュニケーションの変革であろう。密接という「至近距離での意思伝達」が御法度になった。

困ることが多発している。会議の形式がまず問われている。しかしながら、インターネットでの研究会方式は、いくつかの研究の講座に参加している〇〇学会の研修が、中央から流れてくる情報を施設内の職員と同時に学ぶ機会ができたというメリットは凄い。一人の参加が複数の聴講が可能になったのである。つまり、地方にいても学ぶ機会は保証されているのである。




新年研修会概要図
六会場をオンライン会議システムで接続して、リモート研修を行った。

## パール・バックと幻の地元ロケ「大津波」を聴いて

パール・バック・・・誰かな？昨年までは知らなかった。

八雲寮で福祉関係の仕事をはじめて一年間が過ぎた。多くの人に助けられ、励まされ仕事を続けられたことに感謝。そして、"縁"を感じる。初めて知ったパール・バックとはアメリカのノーベル賞作家で短編小説「The Big Wave(1948)」が日米合作映画として、雲仙市小浜町や千々石町でロケが行われ、「大津波(1962)」が映画化された。さて、加工班で作っている菓子箱の「湯せんべい」はパール・バックが雲仙小浜に住んでいた時(1927)に娘キャロルと食べて、感激していたという逸話も残されている。これも"縁"である。

パール・バックの名言に、仕事の喜びを見出すことは、若さの泉を発見することである＝To find joy in work is to discover the fountain of youth とある。これからも、"縁"を大事にして楽しく仕事に取り組んでいきたい。

八雲寮　支援員　福田義郎

過日、福田さんと南島原市主催の「市民文化講座」に参加した。講師は元福島大学教育学部名誉教授松崎博文さん(布津町出身)であった。松崎さんとは五十四年ぶりの再会となった。

その昔、松崎さんは長崎大学教育学部二年生で水田善次郎先生の門下生であった。筆者は水田ゼミで、社会人として入学が許され、同じゼミでダウン症研究をした仲間である。